

プログラム

プログラム

9:00～

開場（受付開始）

9:25～9:30

開会挨拶

済生会守山市民病院 院長 野々村 和男

9:35～10:40

一般演題1「回復期1」

第1会場：瑞祥の間1 座長：上村 謙一郎（済生会明和病院）

1-1 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中患者の練習中の転倒調査

演者：安藤 僚

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

1-2 回復期リハビリテーション病棟の脳卒中重度片麻痺患者に対するロボット歩行練習の現状

演者：田井中 歩

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

1-3 回復期病棟での下肢装具療法の実践－装具療法の効果を最大化するために多職種で連携して取り組んだ1例－

演者：林 翔太

東神奈川リハビリテーション病院 セラピスト部 理学療法士

1-4 下肢装具に対する意識の変化が歩行機会拡大に繋がった脳卒中症例

演者：伊東 恵

東神奈川リハビリテーション病院 セラピスト部 理学療法士

1-5 発症3か月後に回復期病棟に入院し、残存機能を生かして歩行能力向上を図った脳卒中症例

演者：大和 泰葉

東神奈川リハビリテーション病院 セラピスト部 理学療法士

1-6 高齢脳卒中患者に対し最適な補装具を検討した一例

演者：平川 史紋

済生会みすみ病院 リハビリテーション室 理学療法士

1-7 摂食嚥下患者に対して舌圧測定器を用いた低強度訓練効果の分析

演者：長谷部 拓哉

愛知県済生会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 言語聴覚士

1-8 バルーン拡張練習と段階的な食事形態・姿勢の調整により、3食経口摂取に至った延髄外側梗塞の一例

演者：田村 真名美

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 言語聴覚士

9:35～10:40 一般演題2「回復期2」

第2会場：瑞祥の間2 座長：中川 裕規（済生会守山市民病院）

2-1 回復期リハビリテーション病棟における脳卒中片麻痺患者の上肢麻痺の変化および退院時の状況

演者：指方 直人

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 作業療法士

2-2 脳卒中上肢痙縮に対する拡散型圧力波に関するランダム化比較試験の文献レビュー

演者：足立 波優

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 作業療法士

2-3 脳卒中下肢痙縮に対する拡散型圧力波に関するランダム化比較試験の文献レビュー

演者：大河内 亮

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

2-4 両側脳梗塞により覚醒低下・不隠を呈し、介入に難渋した一症例

演者：玉岡 華

大阪北リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 作業療法士

2-5 高次脳機能障害患者の促進因子に着目した退院支援の一例

演者：西田 ゆいな

大阪北リハビリテーション病院 看護部 看護師

2-6 半側空間無視の机上評価と観察評価の検出力の差異に関する横断的調査

演者：新藤 志織

東神奈川リハビリテーション病院 セラピスト部 作業療法士

2-7 重度ギランバレー症候群の事例に対して免荷型上肢機能訓練ロボットでの上肢機能訓練と表面筋電図を用いて難易度調整をした実践報告

演者：山本 彩加

東神奈川リハビリテーション病院 セラピスト部 作業療法士

2-8 病人役割をする脳卒中患者に対して、園芸を通して習慣と役割にアプローチした一例～人間作業モデルによる回復期作業療法～

演者：松井 朋之

済生会明和病院 リハビリテーション技術部 作業療法士

10:50～11:55 一般演題3「回復期3」

第2会場：瑞祥の間2 座長：小澤 和義（済生会滋賀県病院）

3-1 回復期リハビリテーション病棟における軽度認知障害を有する大腿骨近位部骨折患者の予備的調査

演者：河原 智

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

3-2 回復期リハビリテーション病棟入棟時に軽度認知障害を有する大腿骨近位部骨折患者の認知機能低下領域の調査

演者：佐藤 ちひろ

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

3-3 回復期リハビリテーション病棟における軽度認知障害を有する大腿骨近位部骨折患者が退院時に改善した認知機能領域

演者：後藤 厚美

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

3-4 回復期リハビリテーション病棟に入棟した大腿骨近位部骨折患者におけるリハビリテーション意欲と訓練効果の関係性

演者：谷川 泰寛

済生会明和病院 リハビリテーション技術部 理学療法士

3-5 左BHA施行後、起立動作の不安定性に着目した一症例

演者：佐々木 杏珠

大阪北リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 理学療法士

3-6 立ち上がり獲得に難渋した1症例

演者：和田 一誠

大阪北リハビリテーション病院 リハビリテーション技術部 作業療法士

3-7 脊椎圧迫骨折患者の移動能力と体組成の関連 ～位相角と筋質に着目して～

演者：花田 楓弥

済生会大牟田病院 リハビリテーション部 理学療法士

3-8 昼食時にリハスタッフを導入して車椅子移乗を行った取り組みについて

演者：野村 龍誠

済生会二日市病院 リハビリテーション部 理学療法士

12:10～13:15 一般演題4「教育・チーム医療」

第1会場：瑞祥の間1 座長：三石 敬之（済生会飯塚嘉穂病院）

4-1 リハビリテーションセンター開設4年間のリスク管理に対する取り組み

演者：中川 裕規

済生会守山市民病院 リハビリテーション技術科 作業療法士

4-2 当院における摂食嚥下機能回復体制加算の取り組みと今後の課題について

演者：武田 結

済生会滋賀県病院 リハビリテーション技術科 言語聴覚士

4-3 嚥下ラウンドを通して ～取り組みと今後の課題～

演者：鴨 恵美

済生会滋賀県病院 看護部 看護師

4-4 言語聴覚士の教育プログラムについて - 多職種と結束して作成した内容の紹介 -

演者：入野 隆仁
済生会湘南平塚病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

4-5 熊本病院 (SAIKUMA) セラピストレジデント制度について

演者：山田 浩二
済生会熊本病院 リハビリテーション部 理学療法士

4-6 セラピストとの連携強化を目指した退院支援の取り組み～フローチャートとプロトコルの活用を振り返る～

演者：磯崎 あす香
済生会湘南平塚病院 看護部 看護師

4-7 患者の意思を尊重したリハビリカンファレンスの成果 ～ICFシートを活用して～

演者：堤 容子
済生会明和病院 看護部 看護師

4-8 レッドゾーンでの早期リハビリテーション介入についての報告

演者：春田 浩範
済生会二日市病院 リハビリテーション部 理学療法士

12:10～13:15 一般演題5「急性期」

第2会場：瑞祥の間2 座長：森 俊樹（済生会神奈川県病院）

5-1 整形外科術後患者における術後せん妄に関連する因子について

演者：宮本 知華
済生会金沢病院 リハビリテーション部 作業療法士

5-2 有痛性肩関節可動域障害に対して当院で実施している運動療法 肩関節可動域の即時効果

演者：赤木 弘和
済生会湘南平塚病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

5-3 意識調査から得られた当院の包括的呼吸リハビリテーションに関する課題

演者：品川 寛和
済生会飯塚嘉穂病院 リハビリテーション部 理学療法士

5-4 乳がん骨転移による恥骨病的骨折患者に対し、荷重の頻度と量に着目し介入した結果、自宅退院が可能となった一例

演者：萩原 帆香
京都済生会病院 リハビリテーション科 理学療法士

5-5 腎細胞癌術後に胸椎転移を来した患者の一例 ～社会復帰を目標に機能向上した症例～

演者：松尾 由香利
済生会大牟田病院 リハビリテーション部 理学療法士

5-6 座位での著明な低酸素血症に対して超音波診断装置を用いた横隔膜機能評価を呼吸指導に活用した一例

演者：田中 健斗

済生会泉尾病院 リハビリテーションセンター 理学療法士

5-7 肝硬変 Child-Pugh 分類 C 患者に対する B-SES の効果 ～筋力維持と下腿浮腫軽減を認めた一症例～

演者：高田 英理加

済生会八幡総合病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

5-8 敗血症を起因とした筋力低下を呈した患者に対して B-SES を用いることで、ADL 自立に至った症例

演者：柴田 来夢

済生会八幡総合病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

13:20～14:25 一般演題6「生活期」

第1会場：瑞祥の間1 座長：岸谷 都（済生会金沢病院）

6-1 回復期リハビリテーション病棟で行っている自宅訪問の有無による FIM 利得への影響について

演者：諸岡 健志

済生会唐津病院 リハビリテーション科 作業療法士

6-2 多発外傷を受傷した一症例に対して関節保護や再転倒予防に配慮して理学療法を実施した経験

演者：野澤 寿規

済生会金沢病院 リハビリテーション部 理学療法士

6-3 入院から在宅生活への移行における福祉用具モニタリングの重要性

演者：坂野 智裕

済生会泉尾病院 福祉用具ステーション 理学療法士

6-4 当通所型サービス C 開始時における独歩自立者のプレフレイルおよびフレイルに関連する身体機能評価の検証

演者：吉澤 穰

済生会みすみ病院 リハビリテーション室 理学療法士

6-5 歩行速度低下自覚の有無と筋の関係

演者：稲吉 直哉

済生会大牟田病院 リハビリテーション部 理学療法士

6-6 高齢者における熱中症とフレイル・廃用症候群・入院関連機能障害の関連性

演者：山野 琢磨

神栖済生会病院 リハビリテーション科 理学療法士

6-7 JRAT としての令和6年能登半島地震1.5次避難所での活動と私たち地域での課題

演者：新堂 翔平

済生会明和病院 リハビリテーション技術部 理学療法士

6-8 令和6年能登半島地震における JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）活動報告および復興リハビリテーションの課題

演者：岸谷 都

済生会金沢病院 リハビリテーション科 医師

13:20～14:25 一般演題7「回復期4」

第2会場：瑞祥の間2

座長：須貝 美穂（大阪府済生会大阪北リハビリテーション病院）

7-1 ミトン着用が患者に与えていた弊害～セラピストと協働した心身機能の向上を目指して～

演者：田米 美里

済生会明和病院 看護部 看護師

7-2 患者と共に取り組んだ自己排尿獲得への援助

演者：松下 なみ

済生会大阪北リハビリテーション病院 看護部 看護師

7-3 転倒転落減少への取組み～チームカンファレンスを通じた FIM 評価の乖離に対する意識向上～

演者：森田 瑞恵

済生会守山市民病院 看護部 看護師

7-4 回復期リハビリテーション病棟における多職種連携の靴の検討と介入について

演者：青木 真紀

済生会金沢病院 看護部 看護師

7-5 PICS-F 予防における理学療法士の役割：家族との協同リハビリテーション・VALUE コミュニケーションを実践した一例

演者：新川 翔

済生会八幡総合病院 リハビリテーション技術科 理学療法士

7-6 当院における運動器疾患患者の実施単位数と FIM 利得との関係 ～6 単位超と 6 単位以下の比較～

演者：北村 哲也

愛知県済生会リハビリテーション病院 リハビリテーション科 理学療法士

7-7 実績指数と FIM 運動項目の利得、在院日数との関連性について ～実績指数 40 以上と 40 未満の比較検討～

演者：佐伯 喬弘

済生会有田病院 リハビリテーション科 理学療法士

7-8 FIMの測定に関する院内研修からみえてきた傾向と今後の課題

演者：内藤 洋

愛知県済生会リハビリテーション病院 看護部 看護師

14:35～15:35 特別講演

第1会場：瑞祥の間1 座長：野々村 和男（済生会守山市民病院 病院長）

回復期における活動向上の実践戦略

講師：大高 洋平先生

藤田医科大学 医学部 リハビリテーション医学講座 主任教授

藤田医科大学七栗記念病院 病院長

15:45～17:05 シンポジウム

第1会場：瑞祥の間1

座長：大高 洋平先生（藤田医科大学医学部リハビリテーション医学講座主任教授）
（藤田医科大学七栗記念病院 病院長）

高田 美和先生（済生会守山市民病院 看護部 課長）

～リハビリテーションにおける多職種連携で脳卒中患者の活動を育む～

1. 当院における摂食嚥下障害に対するチームアプローチ

—介入システムとSTの役割—

演者：藤田医科大学ばんだね病院 梶浦祥子先生（言語聴覚士）

2. 退院時ゴール設定時の多職種カンファレンスに向けて職種間の相互理解を進めるための当院での取り組み

演者：済生会東神奈川リハビリテーション病院 田原正俊先生（作業療法士）

3. 生活期からみる回復期から住み慣れた生活へのポイント

演者：愛知県済生会リハビリテーション病院 堀場俊介先生（理学療法士）

17:10～17:15 次期当番挨拶 / 閉会挨拶

第1会場：瑞祥の間1

次期当番挨拶 済生会みすみ病院

閉会挨拶 済生会守山市民病院 病院長 野々村和男

17:30～19:00 懇親会

第2会場：瑞祥の間2

※事前申込者のみの参加となります。